

210709 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第41回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

マスコミ3人
傍聴7人

14:00

鈴木保存整備室長：始める
佐治から挨拶

佐治所長：緊急事態宣言解除 対面にて開催
まん延防止措置
報告3件、議事4件

鈴木：出席者紹介
赤羽、高瀬 休み
報告、議事にはいる
資料確認
3点報告

名古屋城：資料1
西之丸展示収蔵施設外構 蔵跡表示イメージ図
イメージ図 発掘調査の結果を踏まえて検討
石をお持ちした 2石
石畳 地覆石新石材を検討

鈴木：現時点の整備イメージ

丸山：新石材 落ち着きが悪い？
調査される 調査して
古いやつ 用途が分からない 御深井に山積み
使えるかどうか検討を
これができたとき イメージ図 基本設計、実施設計
教えてほしい
自然の敷石 薄い気がする 礎石にできるのか
三浦先生にお尋ねしたい

三浦：1番2番5番 礎石が見つからないだろう

蔵の跡 長石で表示

6番御蔵 表現を変える

本物が見つかった

→本物に限りなく近づけるのが本来

もとにあったと同じように 近づける努力が必要

敷石を礎石の代わりにするのは、見学者を混乱させるのでやめて

鈴木：昨年出てきた石は砂岩

今日いただいた意見をよく考えて

今後城内の石を見渡してみたい

丸山：地覆石 間知石

見つかるのか？

鈴木：石材入手 搦め手馬出石垣 若干調べた

神津石入手は難しいと聞いている

小濱：蔵跡には人を入れないのか？

二番御蔵は売店の前

鈴木：計画 平面表示の上に乗っていただく

芝とかやの木のみ乗れない

調査は部会で審議

蔵跡表示 先生にお諮りしたい

報告2 正門トイレ

名古屋城：前回案

便座と扉の間隔がない

→改正案 便所そのものの大きさは変更ができない

仕切りを移動する

22センチほど移動

鈴木：ご意見があれば

そのように取り扱う

3つ目

天守閣整備事業の進捗状況について

14:20

名古屋城：2点

- ・回答の結果について
- ・調整会議について

回答の経過について

文化庁 5/6 郵送で提出

6/18 文化財分科会に報告

本市にも示された

所見：一定程度進捗

木造天守復元が理由なら一体の計画として審議していく必要
一体として見直しを図るのが適当

手順：有識者と十分な議論と合意形成

文化庁の基準に準拠した適切な内容に
一体の計画として

資料3の最後に基準をつけた（※構成員のみ配布）

基準 復元に該当すると考えている

ア～エ

技術的史資料 蓋然性があると整理した

防災上の安全

防火・避難 日本建築センター 安全センター 取得している
構造評定を取得する予定

バリアフリー 安全確保 していく

名古屋城木造は復元と認識

より具体的な計画を提示していく予定

御深井調査なども文化審議会第三専門調査会に報告して

名古屋城：調整会議について

部会がまたがる

去年9月10月に相談

資料3-2~7

第1回 6/27

6人先生

座長は丸山先生

3の主な内容

調整会議 はじめての調整会議

会議開催 局長名「お願い」

会議の位置づけ 関係

考え方

屋上屋を架すものにならないようにしたい

石垣部会・天守閣部会 意見調整・情報交換

非公開での開催としている

穴蔵石垣現状把握について

試掘調査

現場視察について

資料 3-4 思いを書いた

5月回答 6月18日所見

基礎構造 必ず答えを出す必要がある

資料 3-6 関係について

考え方 2月に定まった

今後、調整会議 継続して行う

適宜取りまとめて全体整備検討会議に報告する

14:34

鈴木：意見を

小濱：基礎構造の検討

地下室 複雑 重要なもの

合理的なもの 調整会議で提案を

3-7 考え方

理解を深めるためお聞きしたい

・天守台本来の遺構 手を加えない

どこまでを言うのか

穴蔵石垣 今の昭和35年 SRC 天守 積みなおされている

その時点も含まれるのか

具体的にお聞きしたい

・崩壊する可能性のある天守台で支持しない

石垣が崩壊しても、天守は崩壊しない基礎構造？

・留意点② 外部石垣の崩壊に対する安全対策

人命保全対策でいいのか？

はっきりお聞きしたい

・内部石垣 崩壊しないことを前提

人命保全が目的か

荒井：本来の遺構 どこまで？

今回議題 穴蔵の試掘調査

いままで行ってきた調査 昨年10月スライドで映した

戦後手を加えられている

それをしっかり調査して、情報を把握したうえで検討

今現在どこまで 議論を踏まえて報告

手を加えない 文化庁から助言いただいている

本来の遺構をこれ以上壊さない

天守復元 木造復元 中に入ってもら

大地震がおきて石垣が崩れた場合も観覧者の安全

木造天守は崩れないように

留意事項 外部石垣崩壊

内部石垣崩壊しないことを前提

位置づけが異なる

石垣に影響がない

内部石垣は近くを歩く

大天守の北面

東面 観覧者が歩く 距離を離すことはできる

調整会議で議論

構成員の先生 意見を聞きながら

小濱：本来の遺構 私もわからない

うまく木造天守復元がいくように

麓：荒井さんの回答 よくわからない 不十分

昭和に積みなおした石垣まで入るのか？

「江戸期からの姿の遺構」とある

近代、昭和の修理 積みかえたものは本来の遺構ではないと

言い切ってもいいと思うが

村木：名古屋城 江戸時代のもの

近世 城郭機能期

明治以降 手が加わったところ

城郭機能時の石垣 調査をする

区別ができていない

麓：答えになっていない

近世は本来の遺構

近代 明らかに積み替えたものは本来の遺構ではないと言い切っている
名言してくれない なぜか理解できない
それがはっきりしないと、近代まで手を加えられなくなる
調査するまでもない
発掘調査したり、試掘調査しながら、近代の手が及んでいるか
はっきりさせないと
「調査によってわかります」はおかしい
なぜはっきり言わないかわからない

村木：遺構としての考え方はその通り

近代 本来の姿をしていない
判断がつきかねている
「手を加えない」どこまでか
本来の姿をしていないものも

瀬口：「本来の石垣は崩壊しない」断言できない

計算できない
矛盾しないか？
手を加えていない 崩壊するのでは？
ここの整理の仕方が理解できない
安全性が確保できない
科学的判断で安全性が担保できない
崩壊はする 可能性が高い
麓先生 ここ すっきり読めない
裏がある？
もう少しはっきりさせてほしい

小濱：そこは調整会議ではっきりさせてほしい

丸山：麓先生の話はその通り

穴蔵石垣調査をする
そうしないと何が価値かわからない
手が加えられた
見学 かなり穴蔵石垣 近代以降に手が加わっている
江戸期を見つけるのが難しい
基礎構造検討の中で、お互いの認識もあったか

2 番目 鑑賞者の安全

崩壊しないように

穴蔵基礎構造 倒れてはいけない

ちょっと書き方がある

難しいことを言っているわけではない

見学 近代石垣 危うい感じ

倒れたら危ない

近代を残すのか残さないのか 倒れないようにしようということ

ある程度 押さえることがあった

こんかいはじめての基礎構造 1回目

2回目以降詰めていかないと

麓先生 メンバーでは共通の認識があったと思う

試掘調査で

荒井：内部石垣崩壊が全体 わかりにくい

石垣 完全に安全性を確保はありえない

万一のときに崩れないように、などできる

第1回 会議の位置づけがメイン

今後具体的に進めていく しっかり議論して進めたい

麓：じっくりこない

今度の調整会議で議論しないといけないのか

江戸期からの文化財 本来の遺構

「近代改造は本来の遺構とは思っていない」

それに手を加えるかどうかは次の話

なぜ次の調整会議で議論する必要があるか

荒井：ここの2つに書いてある

「江戸期が本来の遺構」麓先生おっしゃっている通り

それはそれで前提

その後は議論

三浦：江戸期が本来の石垣であることを説明する

一石ずつ積んでいく

裏から詰めて固定

現在の穴蔵 使っている石 新品 転がっている古石

古い石 地上にあるものはなにもない

薄い石を張り付けているだけ
地震 崩れる可能性100%
本来の石垣 どうなのか
せっかく調査して しっかり実証して
本来の石垣が全く残っていない
今度の発掘調査
内部石垣 観覧者が近い 崩れた場合人命に差しさわりの
絶対に崩れてはいけない
想定外でも 1000年に1度でも
通常の方法では絶対無理
別の方法を作って施工するのが必要
崩れないようにするのが前提

鈴木：3つ目ありがとう
議事に移るところ ちょうど1時間経過
10分程度休憩して 3時10分から議事としてスタート

15:10

鈴木：再開
瀬口座長お願い

瀬口：二の丸地区発掘調査

名古屋城：愛知県体育館 移転後の保存活用
平成30年度以降
T13.14のみ
その他は今年度に繰り越した
調査計画を再検討
令和2年度調査の報告
歩兵第六連隊平面図集を参考
承認いただければ、石垣部会に諮る

瀬口：ご意見があれば
石垣部会で議論した結果がここにきているのか？

名古屋城：まだ

瀬口：逆じゃないのか？

村木：調査区の変更 プロセスをもう一度やり直す

瀬口：一回諮られているのならもういい

村木：新たな調査と同じ扱いだと思った

瀬口：その結果を
内容に不備があった 検討して

村木：石垣部会審議 報告

瀬口：屋上屋を重ねるよう

藤井：最初に具体的なことを判断できる
石垣部会 事務局からの提案を踏まえ OK なら
この会議にかけるほうがよいのでは

佐治：全体会議と部会の在り方
ここ一年半くらいやってきた
毎月全体会議をお願いしてきた
簡略化できれば 見直しも考えたい

麓：同じようなことだが、全体会議 判断に迷うことを
部会で検討 全体で承認
全体で承認→部会で検討 考え方がおかしいのでは
全体会議が重要
全体会議で判断つかないから部会で議論はありだと思う

鈴木：昨年3月 今のやり方
全く新しい案件 原案を全体会議 意見を聞く
その案件 詳細な検討 部会に持っていく必要があるか？
部会が必要なければ終わり
部会が必要なら部会で
今回の案件 昨年諮った件の変更 大きく変わった
新たな案件だと判断した

瀬口：変更だということで議題に上がっている
ここで意見がでていいですね、ということならそれでいい
去年決まったことではないのではないかと
新たな案件だということなら新たな案件として出して

佐治：今日は新たな案件
部会の意見を全く聞いていない どこかで聞く必要ある
屋上屋を架す？扱いは全体のことなので整理したい

瀬口：どこで議論するかはここで決める
はかったことを了解すれば部会に行く必要がない
煩雑になりやしないか
実質的な議論をすればよい ここでできちゃえば終わり

佐治：今後は柔軟に
ケースバイケースで

瀬口：全部かかる 振り分ける
部会に行かないものはいかない

鈴木：昨年度 全体会議で扱うこともいくつかあった

瀬口：部会で結論出せなかったら、ここで結論出す
ここで決めるしかなくなっちゃう
そういう理解

鈴木：市としては、例えば国に出す書類 有識者会議 最終の妥当性
あくまで全体整備検討会議だと認識

瀬口：同じ

麓：今日の議題説明
新しい発掘 部会で議論していい？それならいい
ここで説明して、了承して、その後部会で議論 はおかしい
ここで承認したのに部会で検討するのがおかしい

鈴木：今日の議題 部会のほうで検討させていただいてよろしいか
その旨で話をした

瀬口：議題は名古屋市が決めること
部会にお伺いしないと決まらないのか

藤井：この発掘の変更は必要
提案するのはまず部会
具体的に部会で発掘提案があれば、全体整備検討会議で承認
ここで決定したにも関わらず、部会でひっくり返したらどうなる

佐治：全体整備検討会議 位置づけはそのとおり
部会と相談していない
形がスムーズだった
新たな件 全体部会全体

藤井：ここに提案すべきではない
具体的提案していないものを提案すべきではない

佐治：見直す

瀬口：調査を見直す案件

佐治：注意する

瀬口：これは部会で

名古屋城：表二の門

15:34

瀬口：意見があれば

麓：前回の修正ではないが、図00 10ページ01
控え柱の場所
西側 抜きと控え柱の方向があっている
01 抜きの方向と変わっている
平行に書かれている

同じ図で間違っている 正しく書いて

名古屋城：再度現地調査して正確な図にする

瀬口：余芳

名古屋城：余芳

瀬口：なにかあれば

15:41

麓：建造物部会 特に6-9, 10 平面図、断面図

疑問点、間違っている点

意見があったが、この図には反映されていない

作成中 建造物部会の図面と同じもの

その間 何日かあったが、同じ図面をもう一度出さないでほしい

全体会議 また「間違っている」指摘しないと

せめてそのまま出すのはやめて

瀬口：部会はどうな議論をしているのかわからない

「こういう部会の意見があり、こういう修正をした」

しないというのは、疑問があるから修正しない？

時間がもしあったら

判断がつかなければ、ここに出して

部会と全体会議の関係 内容的に高まらない

小濱：建造物部会で議論された

リモートで参加された調査官

「名古屋市の文化財 6-4 黄色い部分だけを取り出す

ほかの部分の扱いをどうするのか」

名古屋市で検討して

変更すればいいというものではない

名古屋城：6-4

先日現場 4畳半は復元

残り 復元のための部材にしてはという意見も

小濱：今後建造物部会が検討する事項ということか

名古屋城：その通り

瀬口：4畳半だけにする理由もほしい

解体したときつきあった

できるだけそっくり持っていこう

経緯がある

次の黄色いところになった

どこかで何かが決まってしまう

丸山：リモートで入った

今日の検討 「余芳を移築する」全体で承認を

名古屋市の文化財 黄色いところ

その他は市の文化財から外した

新たに付け加えたもの

黄色以外は文化財ではない？

もってきたらそう

庭に移築するなら黄色だけ？

全体を全部持ってくる？

瀬口：解体して持ってきた

黄色い部分だけを再建しようという提案

丸山：江戸期 市の文化財

それ以外 外すという

どうして持ってこれるのか？

名古屋城：昭和期 指定文化財

寄贈を受ける 現状変更申請を出す

保存するという現状変更で止まっている

今後、全体会議 四畳半で復元 了承いただいた

二の丸庭園 国に現変を出す

今後名古屋市に指定範囲を変更する

丸山：増築されたものはどうするのか

四畳半以外 持ってこれない？

鈴木：指定されている部材 すべて寄贈を受けて
名古屋城に持ってきた
これから四畳半 計画を
使う部材、使わない部材が確定する
その段階で市の文化財の方で検討する

麓：黄色い部分 当初材
公に移築された 新材に代わっている？そうではない
水屋で使われている可能性
全体で指定して、指定後に解体
解体材は名古屋城に持ってきた
その材料をもとに、二の丸に復元 大宅家復元部分は復元できない
転用部材が四畳半のものかもしれない
調査を明らかにしたうえで、
市指定文化財 指定解除にするのか使える材料
黄色い材料転用 これから

丸山：庭に再建 それ以外は使えない？
今日の議題 余芳再建はよい
その他は別
黄色いところ どうするかはこれから決める
それはここの中で決めるべきことではないのかも
だいぶん話が長引く
文化財の考え方 建造物部会
今日は余芳を再建する OK でいいのか

鈴木：余る材料の考え方
名古屋城がこうしていきたい 先生方の意見を聞いて
部材 名古屋城が決定するものではない
意見は出す この場で意見を聞きたい
市の文化財委員会で諮りたい

丸山：余芳再建で合意した

瀬口：部会の議論の中身も紹介して
天守台試掘調査

15:59

村木：資料 7-1～3

穴蔵石垣試掘調査

平成28年8月9日石垣部会に諮った

文献資料、写真

石垣部会案 試掘調査案

現天守閣解体申請 指摘事項「木造復元の具体的内容を示して」

調整会議 基礎構造 穴蔵石垣試掘を踏まえて

調整会議 建築士、構造力学

検討案に対して報告 大きな異論もなかった

諮りする調査の内容

大天守①～④

小天守⑤～⑧

地上はほぼ変わっている

地下は不明

写真資料 ケーソンから距離があるところ

大天守 北東 残っている部分の範囲を確定したい

トレンチの規模 2～1.5メートル

7-1

コンクリートの床部分に隠れている

現況確認 本来の姿が残っている部分

そこで掘削をやめる

遺構の内部までは掘り下げない

築石 十分注意する

お諮りして、さらに専門部会で議論

16:05

瀬口：ご意見ご質問を

麓：今日はいっぱい言いたいことがある

調整会議でこの話はでた

この穴蔵石垣 根石、地盤調査

それはいいと思う

根石と地盤だけじゃなく、古写真、焼失後の古写真

明らかに積みなおしているところ 確認できている

図面化している この範囲 昭和に積み替えられている

この範囲 当初の石垣残っている
判断つかない部分 示して
非常に薄い石垣に変わっている
とりあえず現状変更ではなく、試掘調査 現況調査
あわせて一緒に現状変更申請したら？→反映されていない
調整会議の資料そのものが出されている

瀬口：そういうのはサボタージュという
議事録からカットですよ
調整会議で出たのなら、反映して試掘調査の追加をする
また部会に戻す必要はないのではないかと
行ったり来たりして、また2-3年かかってしまう
文化庁 指摘しているように現状をしっかりと把握しなさい
調整会議では8か所
私なんか西側 扉開ければ更衣室

村木：構造上調査できないところがある

瀬口：壊してやってもいいんでしょう？
コンクリートはがすんでしょう？
更衣室 できると思う
小天守 偏っている 東や南でもやれるのでは
時間をかけているだけではないか
目標に向かって
・本来の石垣
・戦後の石垣
・判断がつかないもの
なにをやればよいのか 漠然とではだめ

村木：穴蔵全体調査 天守があるので全体調査はできない
速やかに調査ができるところ 調査区を選定した

瀬口：タイムスケジュールがある
100年かけてやるのならいい
一番効率的なものはなにか
予算が必要 人員も必要

村木：現在の時点で、今年度中に見通しが得られる部分

瀬口：現状変更するにも時間がかかる

村木：穴蔵石垣 地上部分 今度石垣部会に報告
石垣評価を確定してから全体に

麓：調整会議はどうなるのか
石垣部会もいる
意見をまた石垣部会で検討するのか
全体に諮るのか
調整会議は何のためにあるのか

荒井：資料 3-2
穴蔵石垣の現状把握
石垣部会をへて調整会議
試掘と合わせて背面調査はやりたいと思っている
調整会議 試掘を先行
もともと背面調査したい
調整会議 麓先生から指摘 私たちも同じ
慎重にやらないといけない 検討してから
時間をかけたわけじゃない また相談させていただきたい

丸山：調整会議 今日の図面
掘削調査 いいんじゃないか
麓先生、三浦先生 現況が資料として出てこない
次の段階にいけない
石垣部会に出したい
穴蔵石垣の全体像
資料ができた段階で出して
スピード感をもって
荒井さん そういう心をもって
いままで出てきたデータ 全体会議
スライドだけ
出していただくと、石垣 本当に石貼り
解析も何もない モルタルで貼ってあるだけ
穴蔵石垣の価値 江戸期のもの ないのではないか

調整会議、石垣部会
オルソーはあると聞いた
試掘については OK と思う
早くするために調整会議がある

村木：次回石垣部会で示して、調整会議に示したい

麓：調整会議で言ったのは、根石があるかどうかだけ現状変更
そのあとで、穴蔵石垣のある部分を解体調査する現状変更
そういう進め方をしているから、穴蔵石垣のどこを
解体して内部の栗石、地山 どこで確認するか
予測がついていると思っていた
一緒に現状変更をかけた方が早く進むだろう
荒井さん「今回のやった後でどこを解体してどう調査するか」
あらためて検討する
悠長な 当然検討していたと思った
この調査にどの程度時間をかけるのか
今後行う調査 石垣調査も併せて出したら
少しでも早くすすむのではないか
そういう努力をしてはどうかといった
逆に、県の洲崎さんに聞きたい
両方確認しないといけないとわかっている
表面だけじゃない
その目的のために、根石、石垣解体
調査範囲が分かれば、同時に現状変更出せると思う

洲崎：調査の目的がしっかりしている
市の担当 取れるのならまとめていただいてもいい
できていなければ個別

麓：個別なら時間がかかるのか

洲崎：そのとおり

佐治：おっしゃる通り
石垣部会が検討していた
背面土 検討してこなかった

穴蔵試掘調査が遅れる
調整会議 お諮りできるよう
穴蔵試掘を先行してやりたい

瀬口：ほかにはどうか
なければ
石垣試掘調査 場所を追加するのはできないのか
それも石垣部会に諮らなくてもここで決めればよいのでは
全体の部会の関係

荒井：瀬口先生から、試掘8か所 西面がない
南面がない
やる前提 →現場調査
やれるところやれないところ
まずやれるところ
大天守西面 コンクリートブロックの壁 機械室
機械室は動いている 取れない
通路部分 現実 狭い部分
西面の発掘は難しい
現天守がある状況でこの場所を選んだ
やりたいのはやまやま

瀬口：大天守の
ケーソンの上に乗っている

荒井：濃いグレー

瀬口：ケーソンの上に石垣が乗っている
新しい石垣
ぐずぐずしているとずるずるしている

荒井：その部分 調整会議でも議論

瀬口：調整会議の意見をここで出さないと
会議は公開しないかもしれないが、意見は公開しないと
委員の名前は公開しなくても
着実に進めて

鈴木：長時間ありがとう
時間を超過して申し訳ない
以上で終了する
時間がある先生は、現場の視察をしていただく

16:30

「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」
令和2年4月17日 文化審議会文化財分科会決定 3ページ